

サ ロ ン

道路から豊かさを引き出すもうひとつの方法

国立社会保障・人口問題研究所が平成14年3月に発表した都道府県の将来推計人口によると、1) 2030年の北海道の人口は476万8千人で、2000年から91万5千人減少する、2) 2030年の北海道の65歳以上人口の割合は33.6%、全国で6位に達する、と言う。これは、ものすごい数字である。人口減少は主に郡部で起こるが、91万5千人という数字は釧路市+苫小牧市+帯広市+小樽市+北見市+室蘭市にも匹敵する。さらに、急激な高齢化の進展を合わせて考えると、北海道が今後自立していくためには、他地域との交流人口拡大が急務の課題であることが分かる。

最近、国土交通省北海道局で「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」が設立・開催された。シーニックバイウェイとは、米国が1980年代後半に法制化して国家レベルで展開している施策で、道路自体が観光資源であることに着目し、地域のNPO等とともに沿道の景観保全などに取り組んでいっている。北海道局では、米国の事例も参考にしながら北海道に導入する手法について検討を開始している。

あらためて考えてみると、道路から豊かさを引き出す方法にもいろいろあることに気づく、A地点からB地点に早く安全に到着できるようになるということは道路の重要な機能だが、移動のプロセスが楽しめるということも非常に大きな要素である。既存の道路すべてを見つめ直して、道路自体の観光価値を再考すると、我々は既にたくさんのすばらしい財産を持っていることが分かる。この財産をいかに有効に活用していくか、が問題である。

近年、韓国や台湾などから多くの観光客が北海道を訪れる。さらに、世界最大の人口を擁する中国からの観光客も今後ますます増えることが期待される。北海道独自のドライブ観光を作りだし、これらの人々により大きな満足を与えることができないか？そして新しい産業を創出し、北海道らしい雇用の創出が図れないか？ハードとソフトの手法を総動員して、道路から豊かさを引き出すもうひとつの方法を発見する旅が始まった。

※なおシーニックバイウェイの委員会について関心を持たれた方は、北海道局のホームページを参照いただければ幸いです。(http://www.mlit.go.jp/hkb/)

(防災雪氷研究室長 加治屋安彦)

* * * *

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number(国際標準逐次刊行物番号)の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD(国際逐次刊行物データシステム)という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館ISSD日本センターから割り当てられたものです。